



令和7年2月15日  
第890号

一般財団法人日本遺族会  
〒100-0001 東京都千代田区千代田一丁目六番五階  
電話 03-3261-5521  
00160-6-25389  
FAX 03-3261-5522  
編集 毎月1回15日発行  
定価 1部130円(税込)

日本遺族会は国の礎となられた英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰藉救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

# 常務理事会 令和7年度事業計画纏まる 語り部事業を中心に組織強化へ

1月30日、常務理事会が開催され、令和7年度活動方針・事業計画が示された。終戦80年の節目に、「戦争の記憶の伝承」の重要性を示し、その社会的課題に応える団体として平和の語り部事業を通して社会に奉仕する姿勢を前面に打ち出した。今後は各種記念事業を通して、平和の語り部事業を積極的に広報し、更なる普及、拡大を図る。

冒頭、挨拶に立った水落敬栄本会会長は、令和7年度予算案の完全実現は、本部支部、丸とつながり、遺族会の社会的意義を高め、事業の更なる拡大を目指す令和8年度予算の拡充を訴えた。主な審議事項は11議

題。最も時間が割かれたのは、令和7年度活動方針・事業計画と組織継承策の経過と終戦80周年平和の語り部事業の具体的な活動方針、事業計画は、昨年度に続き、組織の拡充強化を第一義と位置付け、その上で、時期を捉えた広報と後継者の育成が喫緊の課題と示した。節目の年に「戦争の記憶の伝承」に応える団体として、語り部事業を全国で実施し、社会に奉仕する姿勢を示し、遺族会活動の意義を高めることとあわせて事業推進のため、親会・女性部・青年部が共に活動する中で、組織継承を一層推進することが示された。具体策は以下の通り。

(1)広報戦略  
学校での受け入れを推進すべく効果的な広報に努める。

①自治体と報道双方へPRし、相乗効果を図る。  
②遺族会にしかできない強み「体験者が語る記憶」  
③「全国各地の歴史」  
④「戦後生まれの青年部」共に「に」重点をおき、よ

多くの媒体での報道を供する姿勢を示すため、この他、委託・補助事業の報告、令和7年度予算案、経費削減に伴う会算案の見直しと提案された。加えて、令和7年度が改選期となる役員改選時期、選出方法等の基本方針、事務局組織の改編が提案され、いずれも了承された。

また、効果的な広報として、定期講話の本部で先行実施を決定。千代田区、千代田区教育委員会の後援を受け、3月9日、九段会館テラスで「平和の語り部定期講話会第1回」を実施する。(詳細は4面掲載)

1.9%の引上げへ  
1月24日、厚生労働省は、総務省の「令和6年平均の全国消費者物価指数」を踏まえて、令和7年度の年金額を前年度から1.9%引き上げると発表した。

そして同日、年金額改定に伴い総務省は、令和7年度の恩給年額を、法律の規定に基づき、1.9%引上げを公表した。恩給年額の引上げ(ベースアップ)は昨年

## 各部会議相次いで開催 新役員決まる

本会は、1月25日から29日の5日間、青年部幹事会・部長会、事務局局長幹事会・局長会、女性部幹事会・部長会を相次いで開催した。

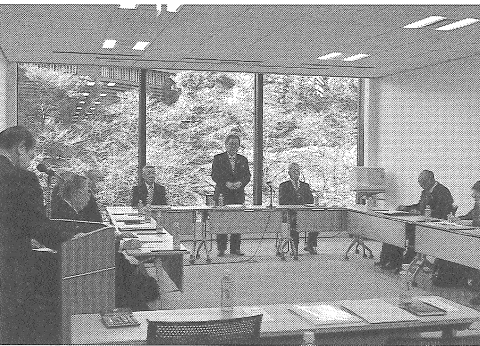
記憶の伝承に取り組み姿勢を示す多様な企画が盛り込まれた詳細は次号。

また、青年部部長会、事務局局長会、女性部部長会が任期満了に伴う役員改選が行われた。特筆すべきは女性部幹事に青年部女性部員が選出されたことである。語り部事業を通じた組織継承に対する女性部の熱意が認められ

た人選であり、女性部の更なる活躍に期待したい。新役員は次の通り。

【敬称略】  
事務局長協議会役員  
【幹事】 渥美輝夫(第5・長崎県) 【幹事】 田口昭益(第1・秋田県) 【幹事】 稲寿(第2・栃木県) 【幹事】 藤瀬昌男(第3・石川県) 【幹事】 田淵田和(第4・鳥取県) 【部長】 田中玉喜(第5・福岡県) 【副部長】 大場盛子(第1・福岡県) 【副部長】 濱順子(第4・徳島県) 【相談役】 伊藤早苗(第3・三重県) 【幹事】 笠原幸子(第1・秋田県) 【幹事】 山下道子(第2・千葉県) 【幹事】 服部恵伊子(第3・和歌山県) 【幹事】 中岡美佳(第4・高知県) 【幹事】 増田輝子(第5・長崎県) 【青年部役員】 【部長】 辻正人(第3・滋賀県) 【副部長】 西山高利(第1・福岡県) 【幹事】 荒田博記(第5・佐賀県) 【幹事】 佐藤勝也(第1・秋田県) 【新井義孝(第2・群馬県) 【宮本謙一(第3・奈良県) 【黒川真介(第4・高知県) 【山田勇治(第5・長崎県)

【報告】 令和7年度予算案、経費削減に伴う会算案、新役員改選の報告、令和7年度が改選期となる役員改選時期、選出方法等の基本方針、事務局組織の改編が提案され、いずれも了承された。



常務理事会で大幅予算増となった平和の語り部事業の重要性について話す水落敬栄会長=1月30日、九段会館テラスで

冒頭、挨拶に立った水落敬栄本会会長は、令和7年度予算案の完全実現は、本部支部、丸とつながり、遺族会の社会的意義を高め、事業の更なる拡大を目指す令和8年度予算の拡充を訴えた。主な審議事項は11議

題。最も時間が割かれたのは、令和7年度活動方針・事業計画と組織継承策の経過と終戦80周年平和の語り部事業の具体的な活動方針、事業計画は、昨年度に続き、組織の拡充強化を第一義と位置付け、その上で、時期を捉えた広報と後継者の育成が喫緊の課題と示した。節目の年に「戦争の記憶の伝承」に応える団体として、語り部事業を全国で実施し、社会に奉仕する姿勢を示し、遺族会活動の意義を高めることとあわせて事業推進のため、親会・女性部・青年部が共に活動する中で、組織継承を一層推進することが示された。具体策は以下の通り。

(1)広報戦略  
学校での受け入れを推進すべく効果的な広報に努める。

①自治体と報道双方へPRし、相乗効果を図る。  
②遺族会にしかできない強み「体験者が語る記憶」  
③「全国各地の歴史」  
④「戦後生まれの青年部」共に「に」重点をおき、よ

多くの媒体での報道を供する姿勢を示すため、この他、委託・補助事業の報告、令和7年度予算案、経費削減に伴う会算案、新役員改選の報告、令和7年度が改選期となる役員改選時期、選出方法等の基本方針、事務局組織の改編が提案され、いずれも了承された。

また、効果的な広報として、定期講話の本部で先行実施を決定。千代田区、千代田区教育委員会の後援を受け、3月9日、九段会館テラスで「平和の語り部定期講話会第1回」を実施する。(詳細は4面掲載)

1.9%の引上げへ  
1月24日、厚生労働省は、総務省の「令和6年平均の全国消費者物価指数」を踏まえて、令和7年度の年金額を前年度から1.9%引き上げると発表した。

そして同日、年金額改定に伴い総務省は、令和7年度の恩給年額を、法律の規定に基づき、1.9%引上げを公表した。恩給年額の引上げ(ベースアップ)は昨年

## 年頭に靖国神社参拝 日本遺族会事務局

日本遺族会事務局職員、頭にあたり英霊の冥福と仕事始めの1月6日、遺族の安寧を願った。また、橋本聖子参議院議員も一緒に参拝した。

8月15日に向けて、戦後80年の節目の年を迎えたいと、さまざまの特集を組んでいるが、も一つの大仕事に就いて触れてみた。それは今年が昭和100年にあたるというところ。昭和は1926(元)年12月25日から1986(64)年7月7日までの62年と14日間、日本の歴史の元号の中で一番長い歴史を持つ。国では超党派議員も結成され、令和8年を昭和100年と位置付け記念行事等が検討されている。昭和を振り返る時、戦争の時代」というワードが出て

から2年連続となった。なお、恩給年額は、毎年度、国民年金の改定率により改定されているが、国民年金が引き下げられる場合であっても、恩給は国家補償の性格を尊重する趣旨から引き下げられない仕組みとなっている。



新たに選出された女性部役員を代表して挨拶する田中玉喜女性部長=1月29日、九段会館テラスで

冒頭、挨拶に立った水落敬栄本会会長は、令和7年度予算案の完全実現は、本部支部、丸とつながり、遺族会の社会的意義を高め、事業の更なる拡大を目指す令和8年度予算の拡充を訴えた。主な審議事項は11議

題。最も時間が割かれたのは、令和7年度活動方針・事業計画と組織継承策の経過と終戦80周年平和の語り部事業の具体的な活動方針、事業計画は、昨年度に続き、組織の拡充強化を第一義と位置付け、その上で、時期を捉えた広報と後継者の育成が喫緊の課題と示した。節目の年に「戦争の記憶の伝承」に応える団体として、語り部事業を全国で実施し、社会に奉仕する姿勢を示し、遺族会活動の意義を高めることとあわせて事業推進のため、親会・女性部・青年部が共に活動する中で、組織継承を一層推進することが示された。具体策は以下の通り。

# 令和7年度予算 悲願 特弔継続・増額

## 語り部1億円計上・洋上慰霊実現へ

政府は12月27日の閣議で令和7年度政府予算案を決定した。本会関係では、本部・支部が丸となって関係省庁、自由民主党選出国会議員等に陳情を重ねた結果、最重要事項であった戦没者等の遺族に対する特別弔慰金の継続・増額、「平和の語り部」事業の予算大幅増額、慰霊友好親善事業の洋上慰霊は船舶借上げが認められ概算要求を超える予算額が計上された。

日本遺族会は、令和7年度政府予算に本会の要望事項が反映されるように、7月には全国戦没者遺族代表者会議、12月には全国戦没者遺族大会を開催し、地元選出の自由民主党国會議員、財務省、総務省、厚生労働省等関係省庁に対し陳情運動を展開した。

また、石破茂総理をはじめ加藤勝信財務大臣や福岡宮内省労働大臣など関係大臣に面会し、最重要事項について説明を求め、理解を求めた。そして、12月27日の閣議決定した令和7年度政府予算案には、本会が要望していた事項がすべて盛り込まれる結果となった。

戦没者等の遺族に対する特別弔慰金は5千円増額され、年5万5千円となり、対象総額約57万人の支給事務費が計上された。また、令和7年度が最終年となる戦没者遺児による慰霊友好親善事業では、大型船舶借上

の経費が認められ、海に鎮まる戦没者の洋上慰霊が実現し、8年振りに実施の運びとなった。そして「特筆すべきは、「平和の語り部」事業である。令和6年度は2千5百万円だった予算が、概算要求額(5千円)に増額され、大幅に増額された。これは遺族会が長年続けてきた語り部活動の意義が認められ、本事業が社会的にも注目されていることの証左である。

本会は終戦80年の節目の年に、より広く「平和の語り部」事業を周知し、次世代へ継承されるよう、全国で戦争と平和について考える機会を提供するさまざまな記念事業を企画、計画している。そして「平和の語り部」を通して遺族に課せられた社会的責務を果たしていくために、さらに事業を拡充し、その予算を政府に求めたい。海外及び国内民間建立慰霊調査事業の

各地の精力的な語り部取組みを紹介したい。11月28日、静岡・山梨両県遺族会は、合同研修会を開催した。合同研修会を兼ね、先週、山梨県の県外研修として、県境を越えて地域一体として語り部事業を推進し、研修を重ねるため、学校への派遣講習等を重ねる山梨県との研修企画をした。静岡県黒田品信局長の進行で開会。冒頭山梨県横川町麻希子局長より梨園遺族会の概要、語り部事業の取組、沖縄甲斐の塔の紹介がなされた。

その後、藤巻進理理事長の紹介がなされた。真杉原五十子女性部長、眞

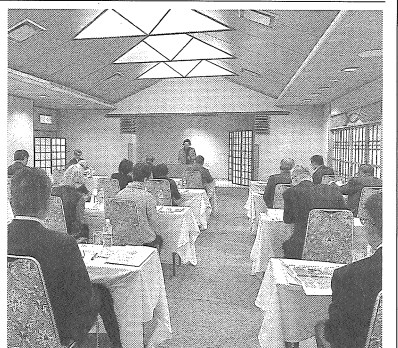
### 新規予算、昭和館の施設整備費なども計上される

### 7年度における戦没者遺族処遇改善項目で

### 平和の語り部事業

### 語り部育成各地の取組み

静岡副理事長の3人が講話を披露。藤巻理事長からは報道機関を活用した周知、慰霊祭への次世代参加と継承の意味が語られた。杉原部長からは戦地の父からの手紙や母の生きた覚悟の思いを通して講話、眞壁副理事長からは沖縄戦への思い、鹿児島県の知覚特攻隊員の講話が語られた。企画した静岡県大石功会長は、語り部事業を通して、遺族会を継承するため、県を超えて共に頑張ろうと締めくくった。



他支部の語り部を学ぶ(講話者:山梨県の杉原五十子女性部長) = 11月28日、山梨県笛吹市で



語り部の重要性を訴える福森昌生会長 = 12月1日、三重県伊賀市で

遺族会福森昌生会長が、本会語り部事業推進の提案を受け企画したものの、内容等を半年以上にわたって検討を重ね、知覚特攻隊記念館語り部講話、関連映画を上映、福森会長は同市から出征した兵士の遺言を紹介し、戦後生まれがおよそ9割となり、戦争の記憶が風化される一方、戦争を勇ましく捉える向きに危機感を募らせた。戦争の惨禍を二度と繰り返してはならないとの平和のメッセージが来場者の胸に届く機会として継続して実施したいと意気込みを語った。会場には220人が来場。千人針など実物資料も展示された。会場に駆け付けた福森静岡市長は「戦争の記憶の風化に鑑み、戦後80年の令和7年度は遺族会と連携し、平和政策に取組みたい」と決意を語った。

12月11日、新潟県妙高市遺族会青年部員2人が市内中学校で初めて語り部講話を披露した。同市は非核平和都市事業の一環として、市遺族会と連携し平和学習、出張講座を実施してきた。長年事業をけん引している間島英夫会長(日遺アロクアドバイザー)は、講話者の高齢化に鑑み、次世代の育成に取組み、昨年より青年部主体の「平和の語り部養成講座」を実施。活動を重ねてきた遺児等の戦争体験者の思いを学び、研鑽を重ね、長谷川裕さん、宮崎淳一さんが、妙高中学校1年生に講話を初披露した。

長谷川さんは、ビルマで戦病死した叔父の苦しみに加え、戦時中、同市の新井農商学校(現新井高校)などの生徒が勤労奉仕として、農業や炊き出しの手伝いにかりだされていた戦後の生活を紹介。子供たちも労働力にされていたことを教えた。生徒からは胸に響いた感謝の言葉が送られた。当日は、青年部の初披露を遺族会員が見守った。間島会長は、語り部への関心が高まり、語り部への関与がより多くなり、これから多くの青年部を育成したいと意欲を語った。本部は事業推進のため、研修等を後押しする。

### 令和7年度政府予算における戦没者遺族処遇改善項目

- 1 遺族年金等(別表)
- 2 戦没者等の遺族に対する特別弔慰金等の支給(事務費) 12億円
- 3 支給事務経費(支給対象件数)
- 4 戦没者等の遺族に対する特別弔慰金 約57万人
- 5 償還の国債を5年ごとに2回交付
- 6 遺骨収集事業等の推進

- 33億円
- (1)遺骨収集事業
  - ①硫黄島における遺骨収集事業 13億円
  - ②海外等における遺骨収集事業 11億円
- 【実施地域】フィリピン、東部ニューギニア、インドネシア、パラオ諸島、マリアナ諸島、トラック諸島、マーシャル諸島、ギルバート諸島
- 4千円
- ④会議開催経費・事務費等 6百万円
- (4)遺骨・遺品の伝達 3千8百万円(うち、戦没者等の遺骨の返還に伴う調査一式の経費1千7百万円)
- 4 戦没者慰霊事業等
  - ①全国戦没者追悼式挙行政経費 2億1千万円
  - ②慰霊碑・慰霊巡拝等 2億1千万円
  - ③政府建立慰霊碑の補修等 5千8百万円
  - ④分析施設(ラボ)における鑑定実施 1億円
- 2億7千万円、R6補正 1億2千万円
- 洋上慰霊
  - 特定地域 2地域
  - (4)平和の語り部事業 1億円
- 5 昭和館事業 4億5千万円、R6補正 5億9千万円
- (1)運営経費・事業経費 4億4千万円、R6補正 2億9千万円
- (2)昭和館施設整備経費 R6補正 5億6千万円
- 6 戦没者遺族相談員の謝金 1人当たり年額2万6千円

### 公務扶助料等年額一覧表

令和7年1月作成(単位:円)

種類	現在額(年額)	令和7年4月より(年額)	増額分(年額)	対象遺族
公務扶助料	2,019,000	2,058,300	39,300	軍人(少佐まで同額)
特別扶助料	1,615,100	1,646,500	31,400	軍人(少将まで同額)
扶養加給	73,900	75,400	1,500	軍人
先順位遺族年金	2,019,000	2,058,300	39,300	軍属、一部軍人
同遺族給与金	2,019,000	2,058,300	39,300	準軍属
同特別遺族年金	1,615,100	1,646,500	31,400	軍属、一部軍人
同特別遺族給与金	1,615,100	1,646,500	31,400	準軍属

(注) 上記の年額表は、日本遺族会事務局による現時点での試算です。

### 北方領土返還 全国大会を開催

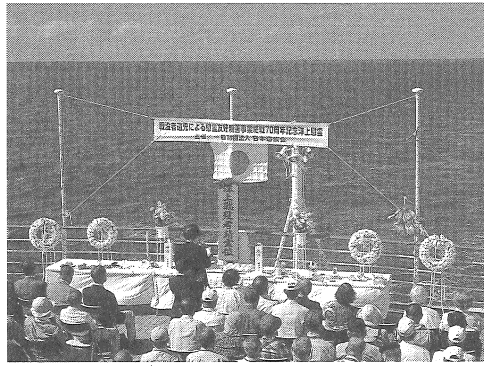
「北方領土の日」の2月7日、令和7年北方領土返還要求全国大会が都内で開催され、政府や関係団体の代表が問題解決への決意を力強く訴えました。石破茂首相は訪米のため欠席し、ビデオメッセージを寄せ「戦後80年の今もなお領土問題が解決されず、ロシアとの間に平和条約が締結されていないことは遺憾だ」と述べた。また、元島民の募金再会を重点に置き、ロシアに交流事業再開を求める考えを示した。

好業 友善 慰親 慰善

# 令和7年度洋上慰霊実現へ 船舶借上げ費政府予算に計上

「戦没者遺児による慰霊友好親善事業」の令和7年度政府予算案に、本会の最重要事項であった大型船舶を借上げての洋上慰霊の予算が計上された。本事業では、海に鎮まる30万の御霊を追悼するとともに、船内では遺児に加え付添いで参加した青年部世代と共に遺児が経験した記憶を伝える「平和の語り部」研修を実施する。

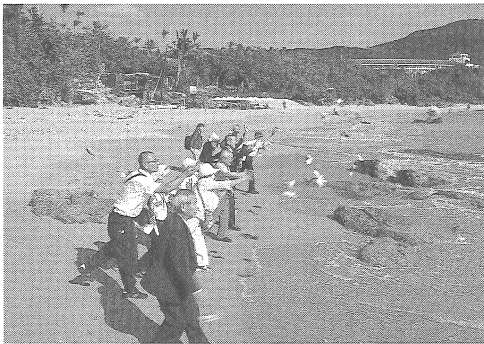
本会が厚生労働省から一度終了する。そこで同年は終戦80年及び事業実施35周年を記念し、海に鎮まる30万の御霊を慰



大型船舶を借上げての洋上慰霊祭 (平成28年3月撮影)

## 父の面影を求めて 台湾・バシー海峡で慰霊

大石綾子本会監事(高知県遺族会会長)を団長とする台湾・バシー海峡慰霊友好親善訪問団は、



バシー海峡に眠る英霊に花を手向ける団員  
= 1月21日、鵝鑾鼻の海岸で

1月17日、全国の遺児代表13人が東京の九段会館を拠点として結団式を行い、靖国神社で慰霊

20日、台湾新幹線で高雄へ移動し、高雄からバスで墾丁に入るまで、高雄の旗津海水浴場、墾丁の鵝鑾鼻公園の各地で慰霊祭を行い、亡き父に積年の思いを語りかけ、共に散華した英霊の冥福を祈った。また、バシー海峡方面の海辺で、海に眠る御霊に花を手向けた。

1月6日、日本に一時帰国していた吉武啓吾在米ヤンマー日本国大使が本会事務局を訪れ、水落敏栄会長と面会した。厚労省岡本利久審議官、担当職員も同席した。

吉武大使は、現政権は外貨規制をかけているため、現金を持ち込むことは難しく、大使館も今はODAや草の根支援活動を中止していると説明したうえで、まずは小学校が支援を受け入れる条件を精査して、ニーズに基づいて遺族会としてできる援助の検討を示唆し、

今回DNA鑑定の結果、身元が判明した遺骨は、令和5年10月にトラック諸島モン島海域の沈没艦船神田丸(清澄丸)の2隻から収容された6柱の遺骨のうち2柱で、厚生労働省では、今後遺骨を遺族へ引き渡せるよう調査、調整しているところである。

厚生労働省は、戦没者遺骨の身元特定のためのDNA鑑定を実施しており、鑑定に掛かる費用は大抵館としても可能な協力はおしえないと話した。また、同地への渡航は安全の確保が最優先であると強調した。

大使館からの助言に感謝し、水落会長は「当時ミャンマーで父を亡くした遺児だけでなく全戦域の遺族から募金を集めて建設した小学校のため、終戦80年の節目の年になんとか寄付金を届けられるよう努力を重ねたい」と語った。

19日から訪問団は、台北から訪問団は、台北に戻った一行は、同日、日本台湾交流協会から台北事務所代表片山

和之氏、主任飯塚尚文氏を招いて懇談会を開催するなど現地関係者と交流を深め、すべての日程を終了した一行は、23日帰国の途についた。

1月14日、厚生労働省中央合同庁舎5号館で、身元が判明した遺骨2柱に対し、「令和5年度トラック諸島(沈没艦船)現地調査・遺骨収集派遣対話型」体験型のさまざまな研修を企画する。

厚生労働省は、戦没者遺骨の身元特定のためのDNA鑑定を実施しており、鑑定に掛かる費用は

大抵館としても可能な協力はおしえないと話した。また、同地への渡航は安全の確保が最優先であると強調した。

大使館からの助言に感謝し、水落会長は「当時ミャンマーで父を亡くした遺児だけでなく全戦域の遺族から募金を集めて建設した小学校のため、終戦80年の節目の年になんとか寄付金を届けられるよう努力を重ねたい」と語った。

今回DNA鑑定の結果、身元が判明した遺骨は、令和5年10月にトラック諸島モン島海域の沈没艦船神田丸(清澄丸)の2隻から収容された6柱の遺骨のうち2柱で、厚生労働省では、今後遺骨を遺族へ引き渡せるよう調査、調整しているところである。



YouTube動画の二次元コード

厚生労働省は、戦没者遺骨の身元特定のためのDNA鑑定を実施しており、鑑定に掛かる費用は

大抵館としても可能な協力はおしえないと話した。また、同地への渡航は安全の確保が最優先であると強調した。

大使館からの助言に感謝し、水落会長は「当時ミャンマーで父を亡くした遺児だけでなく全戦域の遺族から募金を集めて建設した小学校のため、終戦80年の節目の年になんとか寄付金を届けられるよう努力を重ねたい」と語った。

今回DNA鑑定の結果、身元が判明した遺骨は、令和5年10月にトラック諸島モン島海域の沈没艦船神田丸(清澄丸)の2隻から収容された6柱の遺骨のうち2柱で、厚生労働省では、今後遺骨を遺族へ引き渡せるよう調査、調整しているところである。

大使館からの助言に感謝し、水落会長は「当時ミャンマーで父を亡くした遺児だけでなく全戦域の遺族から募金を集めて建設した小学校のため、終戦80年の節目の年になんとか寄付金を届けられるよう努力を重ねたい」と語った。

父を亡くした戦没者の遺児300人以上が参加し、各海域において船上で慰霊祭を挙行し、平和の尊さを、身をもって体験した遺児の記憶を次世代へ伝える意義を学ぶ機会とする。語り部の活動者としての意識を高められるよう、講和型、対話型、体験型のさまざまな研修を企画する。

1月14日、厚生労働省中央合同庁舎5号館で、身元が判明した遺骨2柱に対し、「令和5年度トラック諸島(沈没艦船)現地調査・遺骨収集派遣対話型」体験型のさまざまな研修を企画する。

厚生労働省は、戦没者遺骨の身元特定のためのDNA鑑定を実施しており、鑑定に掛かる費用は

大抵館としても可能な協力はおしえないと話した。また、同地への渡航は安全の確保が最優先であると強調した。

大使館からの助言に感謝し、水落会長は「当時ミャンマーで父を亡くした遺児だけでなく全戦域の遺族から募金を集めて建設した小学校のため、終戦80年の節目の年になんとか寄付金を届けられるよう努力を重ねたい」と語った。

今回DNA鑑定の結果、身元が判明した遺骨は、令和5年10月にトラック諸島モン島海域の沈没艦船神田丸(清澄丸)の2隻から収容された6柱の遺骨のうち2柱で、厚生労働省では、今後遺骨を遺族へ引き渡せるよう調査、調整しているところである。

英霊顕彰、慰霊巡拝、戦没者遺骨収集事業等の本会が実施している活動に賛同し、賛助金を寄せたい方、1月末日まで

## 日本遺族会への賛助金のお礼

英霊顕彰、慰霊巡拝、戦没者遺骨収集事業等の本会が実施している活動に賛同し、賛助金を寄せたい方、1月末日まで

英霊顕彰、慰霊巡拝、戦没者遺骨収集事業等の本会が実施している活動に賛同し、賛助金を寄せたい方、1月末日まで

英霊顕彰、慰霊巡拝、戦没者遺骨収集事業等の本会が実施している活動に賛同し、賛助金を寄せたい方、1月末日まで

英霊顕彰、慰霊巡拝、戦没者遺骨収集事業等の本会が実施している活動に賛同し、賛助金を寄せたい方、1月末日まで

英霊顕彰、慰霊巡拝、戦没者遺骨収集事業等の本会が実施している活動に賛同し、賛助金を寄せたい方、1月末日まで

英霊顕彰、慰霊巡拝、戦没者遺骨収集事業等の本会が実施している活動に賛同し、賛助金を寄せたい方、1月末日まで

英霊顕彰、慰霊巡拝、戦没者遺骨収集事業等の本会が実施している活動に賛同し、賛助金を寄せたい方、1月末日まで

英霊顕彰、慰霊巡拝、戦没者遺骨収集事業等の本会が実施している活動に賛同し、賛助金を寄せたい方、1月末日まで

英霊顕彰、慰霊巡拝、戦没者遺骨収集事業等の本会が実施している活動に賛同し、賛助金を寄せたい方、1月末日まで

終戦80周年 記念事業

語り部定期講話会を開催 千代田区内学生等を対象

戦争体験者の遺族と戦後生まれの青年部が共に記憶の伝承に取組む遺族会の平和の語り部事業の普及、拡大を図るため終戦80周年記念事業として全国で講話座談会を実施する。

終戦から80年を迎える本年は、政府をはじめ報道各社から「戦争の記憶の継承」が社会的な課題として提起され、国民的関心事となることは間違いない。

力を合せて母を助けよ

海軍上等水兵 新本 末義

昭和十九年十一月二十六日 福岡県門司市大里出身三十七歳

大東亜戦争に際して皇恩の有難さを忘れるな。今の度の召集になり遺言として残す。戦死の報を受けても必ず立派に生長することを祈る。

父ヨリ

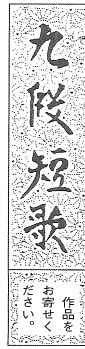
照幸江

【令和七年二月靖国神社社頭掲示 愛しきものへ】

で、体験者の記憶と地域の歴史を青年部と共に取り組む語り部を実施する。

千代田区教育委員会の後援を受け、区内の学生、保護者、学校関係者等を対象とし、同事業の活用に向けた広報とする予定である。

第一弾として「全国各地で戦争と平和について考えよう!!」戦争体験者に当時の話を聞いてみよう」と題した全国共通企画を計画。小中高等学校で実施されている総合的学習の時間の利用に向け、遺族会の語り部の特色である多様な形態(講話型、対話型、体験型)



著者 村田 信昌

八十年を遺児としひたに生きて来しわれは願うなり切に平和を 初日の出暁の杜照らしをり親子三代揃ひて誦す

遺族会の「語り部事業の推進に戦後八十年に遺族が真向かふ 特攻の明日飛び立つ三兵衛さまのつももも父母へ遺書

講師：福居一夫氏(本部 午後二時) 場所：九段会館テラス4 階日本遺族会会議室・桐

語り部講話実施 埼玉で行政が視察

埼玉で行政が視察

12月18日、埼玉県志木市立志木第三小学校6年生を対象とした語り部講話が実施された。講師で福居一夫本部プロックアドバイザー(埼玉県市立志木第三小学校6年 遺族連合会副会長)は、長年同市に居住し、仕事で同市の学校職員等と関わる中で、戦没者遺児



小学生に自身の戦争体験を語る福居一夫氏 =12月18日、埼玉県志木市で

逢えぬとはわかりなく足が向く遠かなるサイパンを想いて 長崎県 原原 恭子

今年の初詣は全国的に天候にも恵まれ、当社に於いても新年を寿ぐ多くの参拝者で賑わいました。さて、日本の正月の風物詩として根付いてきた年賀状の配達数が業界代値上げや近年SNSの普及によるメール等での挨拶が増え、「年賀状仕舞い」が加速している事は残念ですね。一方、同じ便りでも戦地から届いた父親からの軍事郵便は家族に「軍事郵便便のひらに記憶のそひ父のおもかけ」とありました。過去にあった大切な事、もう忘れかけようとしている父の面影を必死に辿るとする作者の、記憶のそひ。

色褪せし軍事郵便便のひらに記憶のそひ父のおもかけ 長野県 塩川 篤子 愛知県 高橋 圓子

問合せ先：日本遺族会広報室(03-3226-1552) 講話後に座談会を予定

としての体験を話してほしいとの要請を受け、およそ二十年にわたり市内全域の小中学校で講話活動を行っていた現在、児童の退校を見守るボランティア活動を通して地域児童との交流を続けている。講話内容は、幼児だった東京大空襲の体験から

また、家族写真や当時の志木中学校(現志木第三小学校)の写真など、視覚を通して、地域の歴史を伝えると共に、沖縄戦没者追悼式における児童生徒の平和のメッセージを紹介し、平和な社会を守るために今を生きていこうと伝えることとを伝えた。講話後は児童から食生活に対する質問が寄せられた。

沖縄平和祈願慰霊大行進 語り部体験型へ参加者募集

日本遺族会は、沖縄戦終結の日である6月23日に、沖縄県遺族連合会と共に、共催で実施する「沖縄平和祈願慰霊大行進」への参加者を募集している。



摩文仁に到着した平和祈願慰霊大行進団 (令和6年6月23日撮影)

地方だより

- 12月15日 鳥根県 令和6年度京都府戦没者遺族大会(304人)
12月23日 京都府 理事・評議員合同研修会(18人)

この事業の目的は、先の大戦で多くの人命が失われた沖縄戦を振り返り、砲弾降りしきる中、苦難の撤退を余儀なくされた戦没者が辿った道程ひめゆりの塔から摩文仁の丘までを体験し、平和を祈願することである。特に終戦80年の節目に、平和の語り部事業の体験型として、全国から組織の後継者である孫、ひ孫等の青年部世代が積極的に参加し、次世代へ戦争の記憶を伝承する語り部の活動者としての意識を高める機会としても

参加申込については、在住する各都府県遺族会事務局へ。

- 1月20日 長崎県 令和6年度長崎県連合遺族会研修会(150人)
1月21日 岡山県 令和6年度岡山県遺族連盟女性部・青年部研修会(50人)